

くにまつ 松 善次

滋賀県知事



滋賀県は中央に琵琶湖を擁し、周囲を豊かな森林に彩られた山々に囲まれている。この滋賀の森林は、生命の源である琵琶湖の豊かな水を育み、県土を洪水や土砂災害から保全して県民の生命や財産を守るとともに、多様な動植物の生息、生育の場であるなど極めて重要な機能を有している。

# 私の視点

いま自治体で

業公社が大きな債務にあえいでいる。滋賀県では二つの公社の債務残高合計が1千億円にのぼり、その処理に頭を抱えているのだが、実はこれは滋賀県に限ったことではない。全国38都道府県に42公社があり、その債務残高の合計は実に1兆2千億円を超え、経営の安定化が課題となっているのだ。

## ◆林業公社

# 抜本改革に国の支援を

昭和30年代に経済の急速な発展に伴う木材需要の増大に対応するため、分収造林特別措置法に基づき、国策として進められた拡大造林政策を担うために設立された。森林所有者との間で伐採時に得られる収益を分け

る拡大造林が達成された。一方、1960年前後の木材輸入自由化以来、安価な外国産材に押され、国産材の価格が下落・低迷した。伐採後の収益で投下経費を回収し借入金返済する

発効もあって地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策が展開されるなど、森林の価値が再認識されているが、本県の取り組みはいわば半世紀も前からこれを先取りしてきたと言える。だが、

いまま一つは、経済的な視点のみではなく、公益的な役割に注目し、健全な森林を確実に未来の世代に手渡したい。

opinion news project